

「修士課程学生向け 外部資金獲得のための申請書作成講座」を開催

東京工業大学イノベーション人材養成機構 (IIDP) は、2024年3月15日(金) 13:30~16:30、オンライン (Zoom) にて、「修士課程学生向け 外部資金獲得のための申請書作成講座」を初めて開催しました。

この講座は、修士課程学生が、外部資金獲得のために必要な申請書作成について、そのポイントやコツを実践的に身に着けることを目的に開催し、当日は約80名の学生が参加しました。

当日の講師は、豊富な審査実績を持ち、これまでも博士後期課程キャリア科目でご教授いただいているお二方にお願ひしました。

～修士課程学生向け～
外部資金獲得のための
申請書作成講座

外部資金獲得のための申請書作成には、ポイントとコツがあります。豊富な審査実績を持つ講師の解説、学振サンプル申請書を用いたのグループワークにより、それらを学ぶことができる講座を開催します！

日時：2024年3月15日(金) 13:30~16:30
形式：オンライン (Zoom)
内容：■ 申請書作成のポイント
■ グループワーク
(学振サンプル申請書の内容検討)
■ 学生が申請できる外部資金 (ACT-X等) に関する説明
講師：小泉 周 先生
(自然科学研究機構 特任教授)
小林 義和 先生
(東工大 国際先駆研究機構 特任准教授URA)

この講座は、日本語で実施されます。 This seminar will be conducted in Japanese.

参加申込み 3月12日(火)までにお申込みください

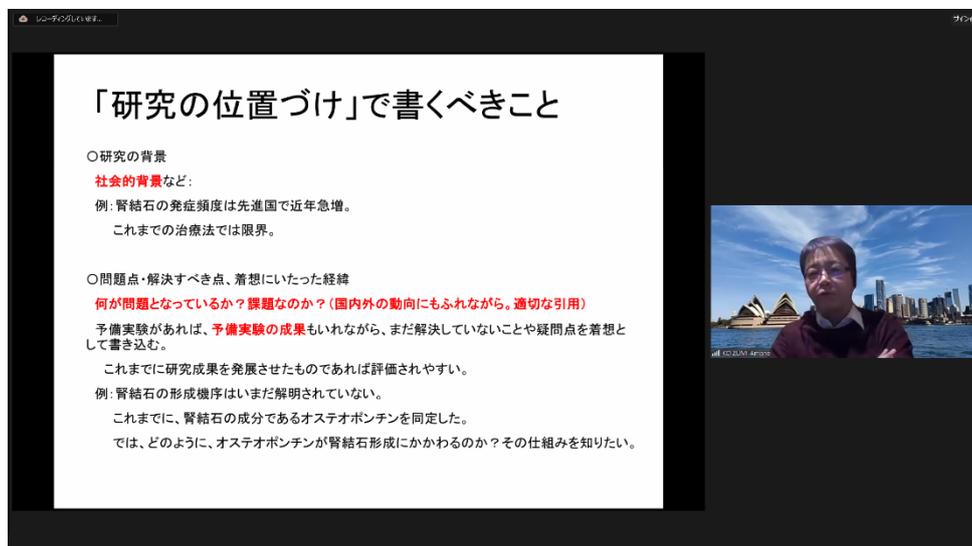
【問い合わせ先】
イノベーション人材養成機構 (IIDP)
iidpinfo@jim.titech.ac.jp

はじめに、小泉 周先生 (大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 特任教授) が「申請書作成のポイント」を説明しました。小泉先生は、科学研究費助成事業 (科研費) の位置づけ、「申請書はどうあるべきか」「申請書に書くべき内容」「図、表、フローチャートの使い方」等を詳しくお話をいただきました。また、ご自身も研究者であることから、「研究者とは」というお話もあり、参加学生は熱心に聴き入りました。

小泉先生は、様々な外部資金審査実績をお持ちのため、「審査員が読みやすい申請書とは」「評価のポイント」についても具体的にお話をいただき、学生からは「自分が申請書を書くときに、どうすれば見栄えが良く、読み手に読みやすくなるようなものが書けるのかの考えをもつことができた」「複数の主著論文による業績を研究計画にどのよう

に盛り込むべきか悩んでいたが、今回の受講でビジョンが明確になった」との感想がありました。特に、「分野外の人を読んでもわかりやすく」「この人を応援したい！と思わせることが何より大事」というメッセージは、学生に大変響いたようです。

さらに、実際に採択された複数の学振申請書のサンプルを用いて、小泉先生の視点での「優れている点」をご教示くださり、学生には非常に参考になりました。



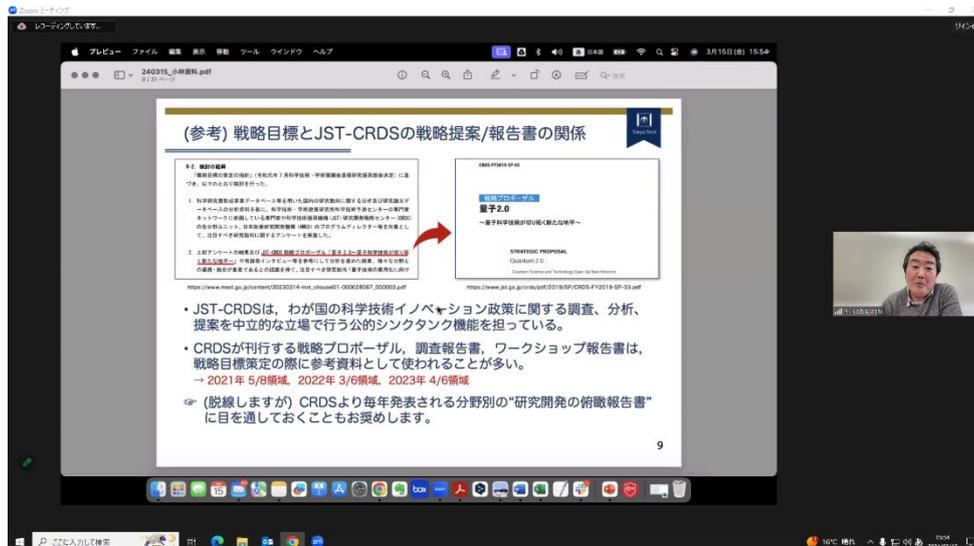
「研究の位置づけ」で書くべきこと

- 研究の背景
 - 社会的背景など:
 - 例: 腎結石の発症頻度は先進国で近年急増。
これまでの治療法では限界。
- 問題点・解決すべき点、着想にいたった経緯
 - 何が問題となっているか？ 課題なのか？ (国内外の動向にもふれながら。適切な引用)
 - 予備実験があれば、予備実験の成果もいれながら、まだ解決していないことや疑問点を着想として書き込む。
 - これまでに研究成果を発展させたものであれば評価されやすい。
例: 腎結石の形成機序ははまだ解明されていない。
 - これまでに、腎結石の成分であるオステオポンチンを同定した。
では、どのように、オステオポンチンが腎結石形成にかかわるのか？ その仕組みを知りたい。

次に、参加学生が3~4名ずつのグループ（ブレイクアウトルーム）に分かれ、サンプル申請書を用いて「どの申請書が、どういう点で優れているか」についてのディスカッションを行いました。「審査員になったつもりで、他人の申請書を読む」という経験は新鮮だったようで、学生からは「審査員の視点を学ぶ貴重な機会になった」「実際の申請書を見てグループディスカッションできたのがとても有意義だった」という感想が多く寄せられました。専門（研究内容）が違う学生同士の交流という意味でも、貴重な機会となったようです。

最後に、小林 義和先生（東工大 国際先駆研究機構 研究戦略部門 特任准教授(URA)）が「大学院生が申請できる外部資金」について説明しました。代表的な国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）戦略的創造研究推進事業プログラムであるACT-Xについては、概要や応募要項、スケジュール、申請書作成ポイント、面接選考対策のほか、東工大における採択状況についても説明がありました。また、「財団法人や企業の研究資金公募情報をどのように収集すればよいか」について、東工大の外部資金情報共有・配信システム（SHIORI）の紹介も含めて説明がありました。

学生からは、「外部資金をまとめたページがあることを知ることができたこともよかった」等の感想がありました。



多くの学生が申請する「日本学術振興会 特別研究員」の応募時期に合わせて開催しましたが、参加学生の満足度は大変高く、アンケートでは、ほぼ 100%の参加学生が「役に立った」と回答しました。また、多くの質問も寄せられ、学生の申請書作成に対するモチベーション向上にも役立つ講座となりました。

東京工業大学では、より多くの学生が研究資金を獲得できるための支援を引き続き実施していきます。

以上